

▼要約

●第一段落

ミロのヴィーナスがこんなにも魅惑的であるのは、失われた両腕が存在すべき無数の美しい腕を暗示し、ある捉え難い神秘的な雰囲気、いわば生命の多様な可能性の夢を深々とたたえているからである。

●第二段落

ミロのヴィーナスの失われた両腕の復元案が試みられているが、それは表現における質の変化をもたらしてしまう。選ばれたどんなイメージも、失われている以上の美しさを生み出すことはできない。もし真の原形が発見されたら、芸術というものの何において、その真の原形を否認したい。

●第三段落

ミロのヴィーナスにとって、失われているものは両腕以外のものであってはならない。なぜなら、世界との、他人との、あるいは自己との交渉の手段である手を欠落させることによって、逆に可能なあらゆる手への夢を奏でているからである。

【語句の意味】

- 1 普遍 あまねく広くゆきわたること。全てのものにあてはまること。
- 2 肉薄 身をもって鋭く迫ること。
- 3 逆説 一見、常識に反しているが、よく考えると真理を言い当てた表現。パラドックス。
- 4 弄する 自由勝手に扱う。
- 5 心象 意識に浮かんだ姿や像。イメージ。
- 6 変幻自在 自由に現れたり消えたり形を変えたりできること。また、そのさま。
- 7 実体 事物の本体。実質。
- 8 根源的 物事の生じたそもそものはじまり。
- 9 述懐 胸の思いを述べること。

☆「ミロのヴィーナス」で重要な語は「逆説」です。「逆説」の意味を知っていますか？

この文章では逆説に注目して真意を探ることが大切です。言い換えれば、逆説の意味をわかっていると文章の意味が正しく理解できないということです。まずは「逆説」の意味を説明します。

「逆説」：真理（正しい道理）に反しているようで、よく考えると一種の真理を表している説、またそのような表現。評論では逆説的表現の背後にある真意に筆者の主張があることが多い。

〈有名な逆説の例〉

●負けるが勝ち 一般的な見解・考え方：負け

逆説：勝ち

一般的な考え方をすれば、負けるのはそのまま負けであると捉えるが、逆説の考え方では、強いて争わないで、相手に勝ちを譲るのがかえって有利な結果をもたらす、結局は勝利になる。

〈「ミロのヴィーナス」中の逆説〉

●彼女がこんなにも魅惑的であるためには

一般的な見解・考え方：両腕を失ってはいけない。

逆説：両腕を失わなければならなかった。

普通の考えでは、両腕が失われた像は破壊された不完全なもので、両腕があるほうが完成されていて魅惑的であるはずなのだが、「両腕がないほうが魅力を生む」という、常識や一般的な見解に反する捉え方を述べている。その理由は、「具体的な美しい腕が失われたことによって、無数の美しい腕を暗示している」ところにあると述べている。これらのことが本文における筆者の主張の主眼である。

同じことは、その理由、真意を含めて最後の部分に「ミロのヴィーナスの失われた両腕は、不思議なアイロニーを呈示するのだ。ほかならぬその欠落によって、逆に、可能なあらゆる手への夢を奏でるのである。」にまとめられている。